

Rational normal curves totally tangent to Hermitian varieties

島田 伊知朗 (広島大・理)

p を素数とし, q を p のべき, k を有限体 \mathbb{F}_{q^2} の代数閉包とする. 射影空間 \mathbb{P}^n の \mathbb{F}_{q^2} 上定義された超曲面は, $q+1$ 次 Fermat 多様体

$$X_I : x_0^{q+1} + \cdots + x_n^{q+1} = 0$$

と \mathbb{F}_{q^2} 上射影同値であるとき, Hermite 多様体と呼ばれる. X_I と k 上射影同値である超曲面を k -Hermite 多様体と呼ぶ. k -Hermite 多様体 X の射影的自己同型群 $\text{Aut}(X)$ は \mathbb{P}^n の k 上の自己同型群 $\text{PGL}_{n+1}(k)$ の部分群として $\text{PGU}_{n+1}(\mathbb{F}_{q^2})$ と共役である.

B. Segre による研究 [3] を出発点として, k -Hermite 多様体の幾何学的性質は深く研究されてきた. たとえば [1] を参照されたい. 我々は論文 [4] において B. Segre の結果 ([3, n. 81]) の高次元化である次の定理を示した.

X を \mathbb{P}^n 内の k -Hermite 多様体とする. 射影空間 \mathbb{P}^n の rational normal curve Γ は X と $q+1$ 個の相異なる点で n 重に接するとき, X に totally tangent であるという.

Rational normal curve Γ の相異なる $q+1$ 個の点の集合 S が Baer subset であるとは, \mathbb{F}_q 上定義された射影直線 \mathbb{P}^1 への k 上定義された同型

$$t : \Gamma \xrightarrow{\sim} \mathbb{P}^1 \otimes k$$

が存在して, $S = t^{-1}(\mathbb{P}^1(\mathbb{F}_q))$ となることである.

主定理. $n \not\equiv 0 \pmod{p}$ でありかつ $2n \leq q$ とする. X を \mathbb{P}^n 内の k -Hermite 多様体とする.

(1) X に totally tangent である rational normal curves の集合 R_X は空でなく, X の射影的自己同型群 $\text{Aut}(X) \cong \text{PGU}_{n+1}(\mathbb{F}_{q^2})$ が推移的に作用する. 各元の stabilizer subgroup は $\text{PGL}_2(\mathbb{F}_q)$ と同型である. 特に R_X は

$$|\text{PGU}_{n+1}(\mathbb{F}_{q^2})|/|\text{PGL}_2(\mathbb{F}_q)|$$

個の元からなる。

(2) $\Gamma \in R_X$ なら, $\Gamma \cap X$ は Γ の Baer subset である。

(3) X が Hermite 多様体なら, 各 $\Gamma \in R_X$ は \mathbb{F}_{q^2} 上定義されており, $\Gamma \cap X$ の各点は \mathbb{F}_{q^2} -有理点である。

例. 標数 5 における Fermat 6 次曲線 $B \subset \mathbb{P}^2$ で分岐する 2 重被覆 $W \rightarrow \mathbb{P}^2$ を考える。 W は Artin 不変量 1 の超特異 $K3$ 曲面となる。 B に 6 点で接する 2 次曲線が 3,150 本存在する。これらの 2 次曲線の引き戻しは W 上の 6,300 本の (-2) -曲線を与える。このように構成された (-2) -曲線は W の様々な射影モデルの構成 [5] において使われた。

証明において重要な役割を果たすのは Lang [2] による次の定理である。正則行列 $A = (a_{ij}) \in \text{GL}_{n+1}(k)$ に対し, 超曲面

$$X_A := \left\{ \sum_{i,j=0}^n a_{ij} x_i x_j^q = 0 \right\}$$

を考える。

定理. \mathbb{P}^n の超曲面 X が k -Hermite 多様体となるための必要十分条件は, 正則行列 $A \in \text{GL}_{n+1}(k)$ が存在して $X = X_A$ となることである。

\mathcal{P} を k -Hermite 多様体のなす集合とする。 \mathbb{P}^n の自己同型群 $\text{PGL}_{n+1}(k)$ は \mathcal{P} に自然に作用し, k -Hermite 多様体の定義によりこの作用は transitive である。 $X \in \mathcal{P}$ の stabilizer subgroup が $\text{Aut}(X)$ に他ならない。

集合 \mathcal{V} を

$$\mathcal{V} := \left\{ (\Gamma, P_0, P_1, P_\infty) \left| \begin{array}{l} \Gamma \text{ は } \mathbb{P}^n \text{ の rational normal curve であり,} \\ P_0, P_1, P_\infty \text{ はその上の相異なる 3 点} \end{array} \right. \right\}$$

により定義する。 $\text{PGL}_{n+1}(k)$ は \mathcal{V} に simply transitive に作用する。

$\mathcal{I} \subset \mathcal{P} \times \mathcal{V}$ を

$$\mathcal{I} := \left\{ (X, \Gamma, P_0, P_1, P_\infty) \left| \begin{array}{l} \Gamma \in R_X \text{ であり, } P_0, P_1, P_\infty \text{ は } X \cap \Gamma \text{ の} \\ \text{相異なる 3 点} \end{array} \right. \right\}$$

により定義する。射影 $\mathcal{I} \rightarrow \mathcal{V}$ は全単射である。実際,

$$(\Gamma^{(0)}, P_0^{(0)}, P_1^{(0)}, P_\infty^{(0)}) \in \mathcal{V}$$

を, $\Gamma^{(0)}$ を $\gamma^{(0)} : t \mapsto [1 : t : \dots : t^n]$ の像とし,

$$P_0^{(0)} := \gamma^{(0)}(0), \quad P_1^{(0)} := \gamma^{(0)}(1), \quad P_\infty^{(0)} := \gamma^{(0)}(\infty),$$

により定める . このとき $A = (a_{ij}) \in \text{GL}_{n+1}(k)$ に対し ,

$$(X_A, \Gamma^{(0)}, P_0^{(0)}, P_1^{(0)}, P_\infty^{(0)}) \in \mathcal{I}$$

となるための必要十分条件は , 多項式

$$f(t) = \sum_{i,j=0}^n a_{ij} t^{i+jq}$$

を $(n+1)q$ 次式と見たとき , $f(t) = 0$ が $t = 0, 1, \infty$ において n 重根を持つことである . この条件を満たす $A = A_0$ が up to multiplicative constants で unique に存在する (ここにおいて条件 「 $n \not\equiv 0 \pmod{p}$ 」 でありかつ $2n \leq q$ 」を用いる .) さらに A_0 の具体的な形をみることにより , $X_{A_0} \cap \Gamma^{(0)}$ は $\Gamma^{(0)}$ の $P_0^{(0)}, P_1^{(0)}, P_\infty^{(0)}$ を含む unique な Baer subset (すなわち $\gamma_0(\mathbb{F}_q \cup \{\infty\})$) となることわかる .

この全単射により , $\text{PGL}_{n+1}(k)$ は \mathcal{I} に simply transitive に作用することがわかる . 従って射影 $\pi_{\mathcal{P}} : \mathcal{I} \rightarrow \mathcal{P}$ の $X \in \mathcal{P}$ 上のファイバー $\pi_{\mathcal{P}}^{-1}(X)$ 上に $\text{Aut}(X)$ が simply transitive に作用する . $\Gamma \in R_X$ とし , $\text{Aut}(X)$ の R_X への作用の Γ の stabilizer subgroup を Stab とする . すると Stab は 3 点 P_0, P_1, P_∞ を忘れる射影 $\pi_{\mathcal{P}}^{-1}(X) \rightarrow R_X$ の Γ 上のファイバーに simply transitive に作用する . したがって Stab は $\text{PGL}_2(\mathbb{F}_q)$ と同一視され , R_X は $\text{Aut}(X)/\text{PGL}_2(\mathbb{F}_q)$ と同一視される .

参考文献

- [1] J. W. P. Hirschfeld and J. A. Thas. *General Galois geometries*. Oxford Mathematical Monographs. The Clarendon Press Oxford University Press, New York, 1991. Oxford Science Publications.
- [2] Serge Lang. Algebraic groups over finite fields. *Amer. J. Math.*, 78:555–563, 1956.
- [3] Beniamino Segre. Forme e geometrie hermitiane, con particolare riguardo al caso finito. *Ann. Mat. Pura Appl. (4)*, 70:1–201, 1965.
- [4] Ichiro Shimada. A note on rational normal curves totally tangent to a Hermitian variety, 2012. preprint, arXiv:1203.4047, to appear in Des. Codes Cryptogr.

- [5] Ichiro Shimada. Projective models of the supersingular $K3$ surface with Artin invariant 1 in characteristic 5, 2012. preprint, arXiv:1201.4533.

shimada@math.sci.hiroshima-u.ac.jp